



東日本大震災から10年

今年3月11日、「東日本大震災」が発生して10年の月日が経ちました。余震も続いています。被災された皆様の生活再建と復旧を、心からお祈りします。災害はいつ起こるか分かりません。防災用具の点検、避難場所や経路の確認などについて、常日頃から家族で準備し話し合っておきましょう。

広島ユネスコ協会活動とSDGs(持続可能な開発目標)

広島ユネスコ協会
会長 松岡 盛人



最近、SDGs(エスディー・ジーズ)がTVや新聞等で度々報じられ、今や、世界の共通語ともなっている“SDGs”ですが、これは、2015年9月に国連で採択されたもので、各国が貧困、飢餓、教育、ジェンダー、保健、環境、エネルギー、経済格差、気候変動などの課題に対する2030年までに達成すべき「持続可能な開発目標」です。17の目標とそれをより具体化した169のターゲットから成り立っています。

本年度、広島ユネスコ活動奨励賞を受賞された学校部門3校と社会部門4団体における活動は、各々SDGs17の目標のいずれかに合致していました。

2020年度の広島ユネスコ協会の事業・活動は、コロナ禍の影響を受け、多くは中止等を余儀なくされ、わずかに昨年8月15日の「平和の鐘を鳴らそう」の集いと今年1月30日の広島ユネスコ活動奨励賞授賞式の2事業を、それぞれ従来の規模を縮小し、感染予防対策を講じた上で実施しました。止む無く実施を見送った青少年対象の「英語でガイドinひろしま」、「高校生国際理解セミナー」、「ユネスコサロン」、「韓国ユネスコ大邱協会友好親善訪問団との交流」等の事業も含めて、広島ユネスコ協会の事業・活動そのものがSDGsの取組みとも言えるでしょう。

SDGsは、各国の政府だけでなく、企業やNGO等の民間組織、市民社会、更に、世界中の人々、

いわゆる国際社会が一丸となって取り組むべき国際目標です。私たちの進めているユネスコ活動は、SDGsが目指すベクトルと同じであると思っています。

私たちは、UNESCO憲章の理念を実現するために、教育、科学、文化、コミュニケーションを通じて国際理解や国際交流・協力等を推進し、国際平和を希求しつつ、これからもSDGsの担い手として持続可能な社会づくりに向け、積極的に貢献・協働してまいります！



17の行動目標

- 1 貧困をなくそう！
- 2 飢餓をゼロに！
- 3 すべての人に健康と福祉を！
- 4 質の高い教育をみんなに！
- 5 ジェンダー平等を実現しよう！
- 6 安全な水とトイレを世界中に！
- 7 エネルギーをみんなに、そしてクリーンに！
- 8 働きがいも経済成長も！
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう！
- 10 人や国の不平等をなくそう！
- 11 住み続けられるまちづくりを！
- 12 つくる責任、つかう責任！
- 13 気候変動に具体的な対策を！
- 14 海の豊かさを守ろう！
- 15 陸の豊かさを守ろう！
- 16 平和と公正をすべての人に！
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう！

第23回 広島ユネスコ活動奨励賞



広島ユネスコ協会は、ユネスコ憲章の理念を踏まえて、「平和の文化」を築く実践的な活動の育成と推進に資するため、本年度も「広島ユネスコ活動奨励賞」事業を実施、優れた活動を継続的に行っている次の3校と4団体を、去る1月30日、広島市市民文化交流会館において授賞式を開催し、顕彰しました。活動内容は次のとおり。



学校部門

- 広島市立三入小学校（校長 坂口 由紀子）
～好きです！ふるさと三入～
防災学習「命を守るために」

2014年に広島市北部を襲った「8・20広島豪雨災害」の被災地になったことを契機として、6年生を対象に防災学習をスタートさせ、2年後には地域住民や団体の協力の下に、独自教材による取り組みを全学年に拡大して、防災への知識や自覚を育て、地域の未来をも考える力を育てている。



- 広島県立五日市高等学校（校長 沖田 浩二）
～新たな学びの創造～

グローバルで地域貢献できる生徒の育成
1999年発生「6・29集中豪雨災害」をいつまでも風化させず、地域における防災を意識して迅速で適切な行動が取れ、地域に貢献できる生徒の育成を目指して、全学年を通じた系統的で充実した防災体験活動を実施している。また、地域の小学校とも連携して防災に関わる出前授業や体験学習を行い、防災意識の醸成に努めている。



社会部門

- 広島市立船越中学校（校長 升原 一昭）
～誰故草（エヒメアヤメ）の保存活動と
地域行事を柱とした地域貢献活動の充実～

地域の船越誰故草保存会と生徒会が連携し、地域から完全に絶滅していた国の絶滅危惧Ⅱ類に指定されている誰故草（エヒメアヤメ）を蘇らせて保存・復活に尽力するとともに、地域の一員として各種の地域行事に参加することを通して、地域社会に貢献し郷土や自然環境を大切にしようとする心を育てている。



- 市民グループええじゃん（ASIAN）
（代表 栗林 克行）
～多文化共生社会の実現を目指して～

日本で暮らす外国人の生活支援を図る外国人無料相談をはじめとして、生活に必要な情報の多言語発信、日本語学習・就学・就労支援、子弟への学習支援を行うとともに、外国人とのトラブルを想定した体験会や国際イベントでの市民交流なども実施し、多文化共生社会の充実を目指した多彩な活動を展開している。



○アース・ミュージアム元宇品構想推進委員会 (委員長 門 隆興)

～自然とふれあい(地球)アース を“想う”共生の場づくり～

地元住民と行政・有識者が連携を図り、原生林の面影が残る美しく魅力ある元宇品を守り次世代に継承しようと、「ありのままの自然の確保」「自然と出会いの場づくり」「自然学習の場づくり」の3つの方針を掲げ、自然観察会や自然観察学習支援、島内の清掃活動などを実施し、環境保護に対する市民への啓発・意識の高揚に努めている。



るための学習会や講習会を実施している。また、国際理解・国際交流を深める活動も展開するなど、平和な世界の実現に寄与する活動に取り組んでいる。



○ヒロシマ・フィールドワーク実行委員会 (代表 中川 幹朗)

～平和を願う「ヒロシマの心」を伝え継承する～

広島平和記念公園及びその周辺を巡る「ヒロシマ・フィールドワーク」を毎年実施するとともに、旧中島地区に居住していた方を招き当時の街や暮らしの様子を聴く会を開催したり、証言された話を冊子にまとめて刊行したりするなど、甚大な被害があった被爆の実相を次の世代に継承する活動を行っている。



○被爆体験を継承する会(代表 甲斐 晶子) ～核なき平和な世界実現を目指す～

原爆被爆者体験証言や埋もれている貴重な原爆・核被害・核兵器廃絶等に関する映像を広く一般に紹介することや、核被害への視点をより広げ

講評

選考委員会委員長
広島大学院教授・文学博士
由井 義通

第23回広島ユネスコ活動奨励賞を受賞された皆様、おめでとうございます。COVID-19の世界的で深刻なパンデミックの状態の中、今年もこのような事業が継続されたことは、事業の企画運営をされている広島ユネスコ協会の関係の皆様のご努力の賜物と思います。

募集要項に記載されていますように、本賞はユネスコ精神の理念を踏まえた「平和の文化」を築く実践的な活動の育成という趣旨に基づいて、活動内容について選考を行いました。審査対象の件数は学校部門が3件、社会部門が4件でした。昨年と比較して審査対象の件数は少なくなっていますが、審査対象の活動の内容は例年並みに内容の濃い素晴らしい活動ばかりであったと思います。審査会での評価の観点は、活動が創意工夫に溢れているか、継続して3年以上の活動で、年間を通して複数にわたって活動しているか、参加者数はどれくらいで社会への影響が大きい活動か、などを総合的に判断

しました。また、それぞれの活動がユネスコの理念とどのように関連しているかという観点も重視しました。

最初に学校部門ですが、広島市立三入小学校と広島県立五日市高等学校による地域と連携した防災学習、広島市立船越中学校によるエヒメアヤメの保存活動など、環境保護や防災による持続可能な社会づくりという観点は、ユネスコが担ったESDの実践といえます。生徒と地域が連携した活動は、地域社会の担い手づくりにおいて期待ができます。

次に社会部門ですが、「市民グループええじゃん」による外国人支援活動、「アース・ミュージアム元宇品構想推進委員会」による自然保護活動と自然学習の取り組み、「被爆体験を継承する会」による被爆者の証言や核兵器廃絶に関する映像学習、同様に「ヒロシマ・フィールドワーク実行委員会」による被爆証言の記録作成、など多文化共生、環境保全、平和に関連した活動が評価されました。特に、「アース・ミュージアム元宇品構想推進委員会」の活動は、活動への参加者が多いだけ

ではなく、地域と住民、学校、行政などとの多様なステークホルダーとのつながりで活動がされており、次世代の担い手育成が図られていることを高く評価しました。

学校部門と社会部門のいずれにおいても素晴らしい活動をしているのですが、活動のエビデンスをいかにアピールするかということについては改善ができるものがいくつかあるように思います。目立たなくても地道に継続されている優れた取り組みは、必ず社会のためになっていて素晴らしいのは間違いのないのですが、素晴らしい活動を仲間内の閉じた関係に留めるのではなく、社会にアピールすることによって活動の輪を広げることも大事になっていると思います。今回、受賞された学校や団体の活動に関わる皆様方には、この奨励賞をきっかけにして、仲間のネットワークを広げたり、次の世代の担い手を育成するなど、活動の新たな広がりや取り組みへとつなげていただくとともに、国内や世界に向けて発信して欲しいものです。皆様方のますますのご活躍を祈念しております。

広島ユネスコ協会 発足50年へ

大邱の人々との出会いと交流の思い出
協会理事 岡平裕次

★1994年に開催された広島アジア競技大会の翌年、広島市青少年センターで、『アジアを結ぶ若者フォーラム』を開催した。このフォーラムでは、若者の国際理解・交流への理解を高めるため、参加した青年を海外に派遣することとし、派遣先は日本に最も近い韓国で、姉妹都市提携が検討されている大邱広域市とした。

1996年3月、大邱市を訪問した一行は、朴炳鍊副市長と1時間に亘る面談の機会を得、広島市との姉妹提携や両国の友好関係などについて話を伺った。そして翌1997年5月2日、広島市において姉妹都市提携の調印が行われた。このとき広島そごうで開催されていた『大邱市紹介展』には、前年訪問した際の若者の交流会の様子が紹介されており、それを見た訪問団青年代表の梶田氏は「自分たちの大邱訪問と交流が姉妹提携への一翼を担ったと感じた」と話している。

★2000年6月、韓国ユネスコ大邱協会と広島ユネスコ協会の姉妹協会提携の調印式が行われ、ユネスコとして本格的に交流が始動することとなった。翌2001年2月には、広島市職員を中心とする『広島・大邱交流協会』を設立し、事務局長であった私は市民交流訪問団を編成して大邱市を訪れた。当時の大邱市役所のメンバーとは今でも連絡を取り合っている。

同年5月には、姉妹提携記念行事である『サランヘ・テグ』を、広島ユネスコ協会が主担当となって開催している。また、大邱交流協会は同日程で両市の若い陶芸家による『広島・大邱文化交流陶芸展』を開催した。そして9月には広島ユネスコ協会が第一回目の大邱市訪問を行い、以後、隔年で相互訪問を行うこととなった。

2003年5月、留学生会館での記念行事名が『テグナル』と改められ、フラワーフェスティバルの会場では、大々的に大邱市や韓国文化の紹介コーナーが設けられるようになった。8月には、広島市・大邱広域市青少年交流事業もスタートした。広島観光物産展での和太鼓ステージの世話係を務めたことも鮮明に覚えている。その後、剣道交流団の受け入れや両市鍼灸師会の交流にも大きく関わった。

★当時、青少年センターを経て公民館に勤務していた私は、まるで大邱市民との交流窓口にもなっていたかのような、あわただしい日々を送っていたが、たくさんの素晴らしい方々との出会いに恵まれたことに感謝したい。また、これらの交流が今でも続いていることを心から嬉しく思っている。



若者による文化交流陶芸展
～ NHK 展示ロビー ～

中国ブロック ユネスコ活動研究会

中国ブロック研究会が、昨年11月、オンライン方式で開催されました。研究会では、現状や2021年度以降の取り組み、課題などについて、意見が交わされました。広島ユネスコ協会からは松岡盛人会長（日ユ協連ブロック代表理事）と森木学事務局長が参加しました。

主な協議結果は次のとおり。

議題1) 中国ブロック研究会開催順について

ブロック研究会の主管サイクルは、21年度鳥取県、22年度島根県、23年度山口県、24年度広島県、25年度岡山県の順で行うことで合意。

議題2) 全国大会の輪番制、中国ブロックの担当

2020年度は山口県内で開催予定でありましたが、新

型コロナ感染禍のため、中止となりました。

次回の中国ブロック担当は2030年度となっております。

議題3) コロナ禍における各地ユネスコ協会・クラブの活動状況について

5県の県(地区)ユネスコ協会の代表から報告があり、コロナ禍で予定行事の開催中止や延期が報告されましたが、それでも「平和の鐘を鳴らそう」のイベント開催や書き損じハガキの回収などに、粘り強く取り組んでいるとの発表もありました。

議題4) 組織内デジタル化進捗について

情報・通信ネット社会の変化に対応し、中国ブロックのユネスコ協会もメーリングリストを作製し、5県のユネスコが互いの情報を共有化していくことを確認しました。

✿ 書き損じハガキ 集めています ✿

広島ユネスコ協会は、昨年来より会員の皆さんからお寄せいただいた書き損じハガキや、余っている年賀ハガキを切手に交換して、日ユ協連に送付させていただきました。

受け入れたハガキの総数は396枚で、切手の交換手数料を差し引いて、21,404円となりました。この金額で切手を購入して送付しました。(事務局長 森木 学)

★書き損じハガキ回収キャンペーンは、日本ユネスコ協会連盟が世界寺子屋運動の一環として実施しているものです。ぜひ広島ユ協事務局まで送ってください。

送り先 〒730-0036 広島市中区袋町6番36号
広島市まちづくり市民交流プラザ
メールボックス89号気付

＜会員を募集しています＞

ユネスコの精神に賛同し、広島ユネスコ協会の活動に参加したり、支援をしていただける方を募集しています。年会費(個人会員の場合)3,000円。青年(～35歳以下)は2,000円。申込先：森木事務局090-7132-2284、または広島ユネスコ協会HPから検索。

当協会URL：<https://www.unesco.or.jp/hiroshima/> 入会案内へ。



広島ユネスコ協会

